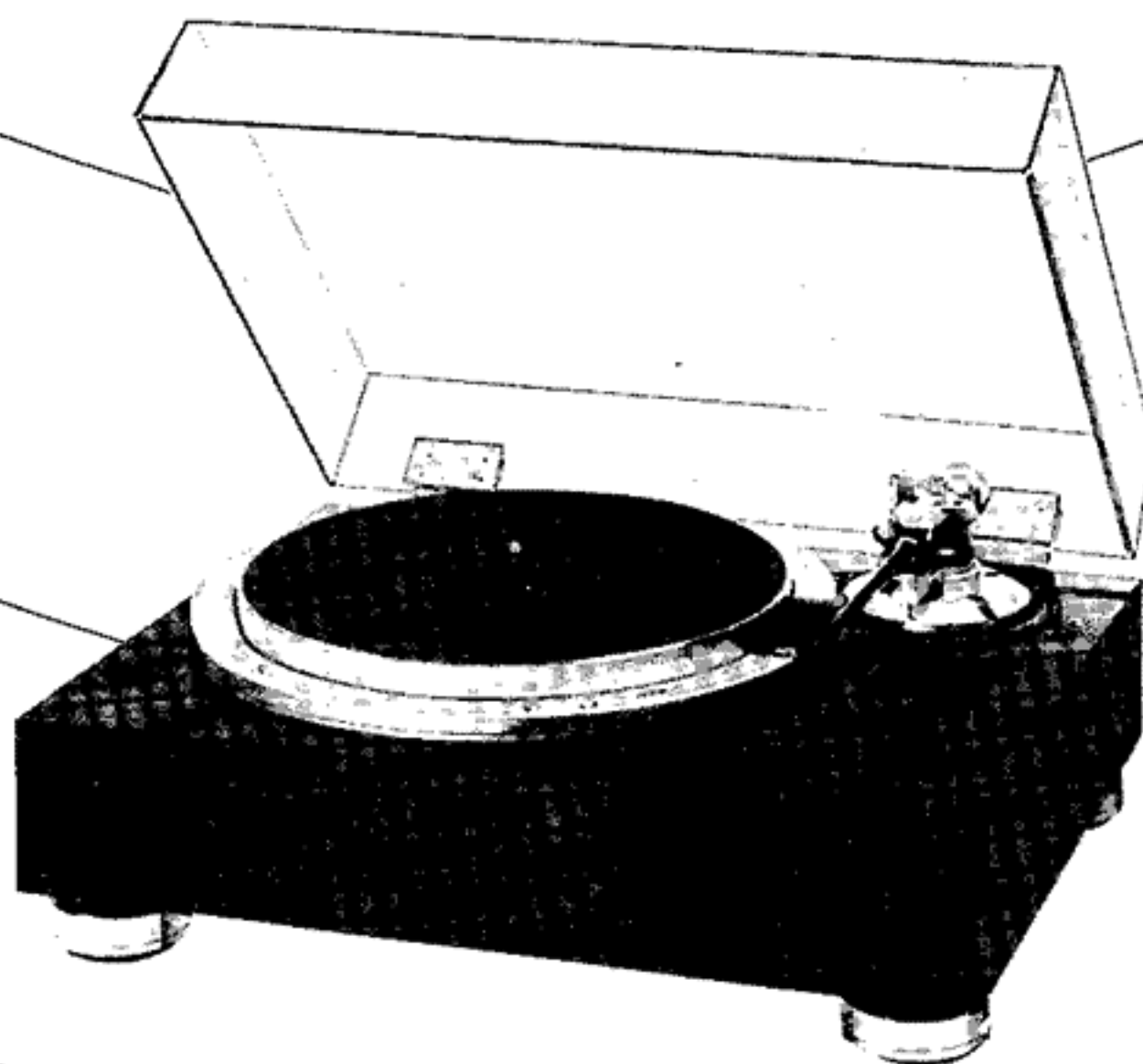


ダイレクトドライブ プレーヤー システム

QL-A95

取扱説明書



— お買いあげありがとうございます。 —

ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになったあとは、大切に保存してください。

ご注意

■ 安全上の注意

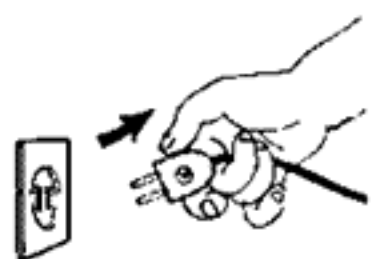
- ・電源電圧は
交流 100V をご使用ください。
- ・電源周波数は
50 Hz 地域 または 60 Hz 地域でもそのまま使用できます。
- ・電源コードを取り扱うときは
電源コードの取り扱いかが悪いと、火災や感電の原因となることがありますので、次のような点に十分ご注意ください。



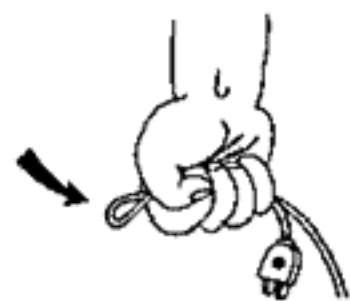
100V 以外は使用しない



濡れた手でさわらない



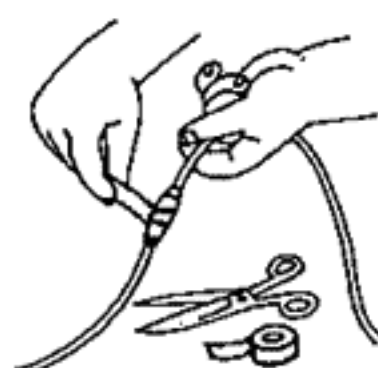
抜くときはプラグを持って



折り曲げたりしない



敷いたりして傷をつけない



継足しなどはしない



プラグを抜く習慣を

- ・異常と感じたときは
煙がでている、変な匂いがする……などの故障状態のまま使用すると危険です。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理をご依頼ください。



- ・セットの内部に触れることは
危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、販売店へお任せください。

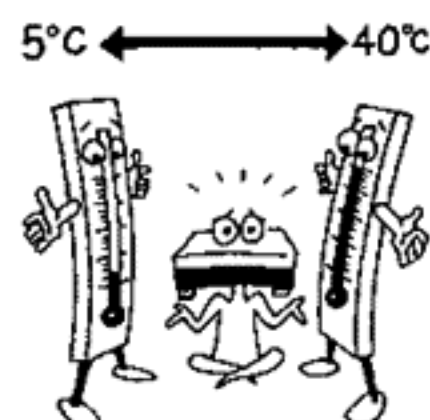


- ・水がこぼれたときは
セットの上に花びん、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。万一内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。



■ 取り扱い上の注意

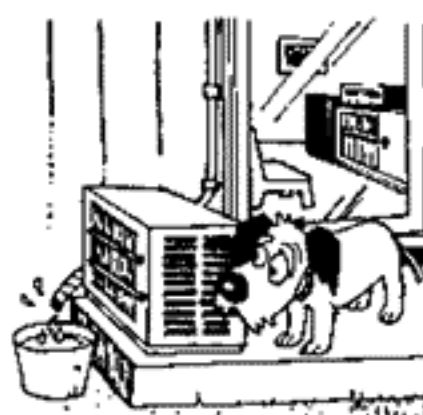
- ・性能の維持確保 あるいは 故障防止のため、次のような場所はできるだけさけてください。



周囲温度が“5℃～40℃”の範囲を越える所



寒い部屋から急に暖かい部屋への移動



湿気の多い所



直射日光の当る所



不安定な所



暖房器のそば



振動やホコリの多い所



テレビのそば

- ・外国での使用は？
本機は日本国内用に作られていますので、電源電圧、電源周波数の異なる外国では、使用できません。



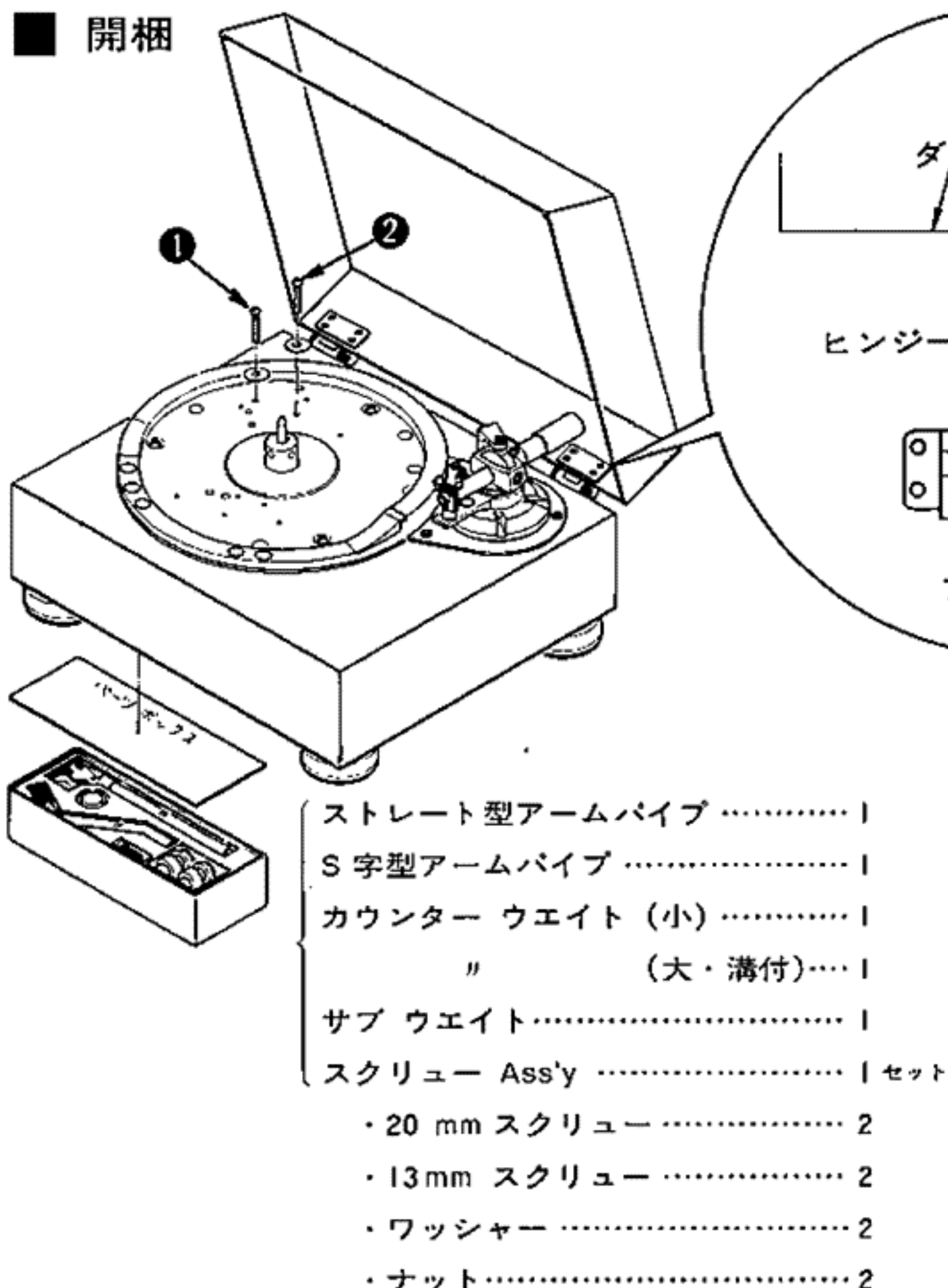
- ・キャビネットが汚れたら
中性洗剤などで汚れを落とし、乾いた布でふきとります。シンナーやベンジンなどの使用は、ひび割れ、変色を招きます。



準備

—トーンアームの高さ調整が終わるまで、電源プラグはコンセントにさしこまないでください—

■ 開梱



1. 別梱包されたターンテーブルやゴム シート および パーツボックスをダンボール ケースから取りだします。
2. 輸送用ねじ ❶、❷ を取りはずします。
3. パーツボックスの中のカウンター ウェイトをウェイト軸に取り付けます。

(注)・カウンター ウェイトは2個添付されて
おりますので、使用するカートリッジ
の重さに合わせて使い分けしてくださ
い。

■ ターンテーブルの取り付け

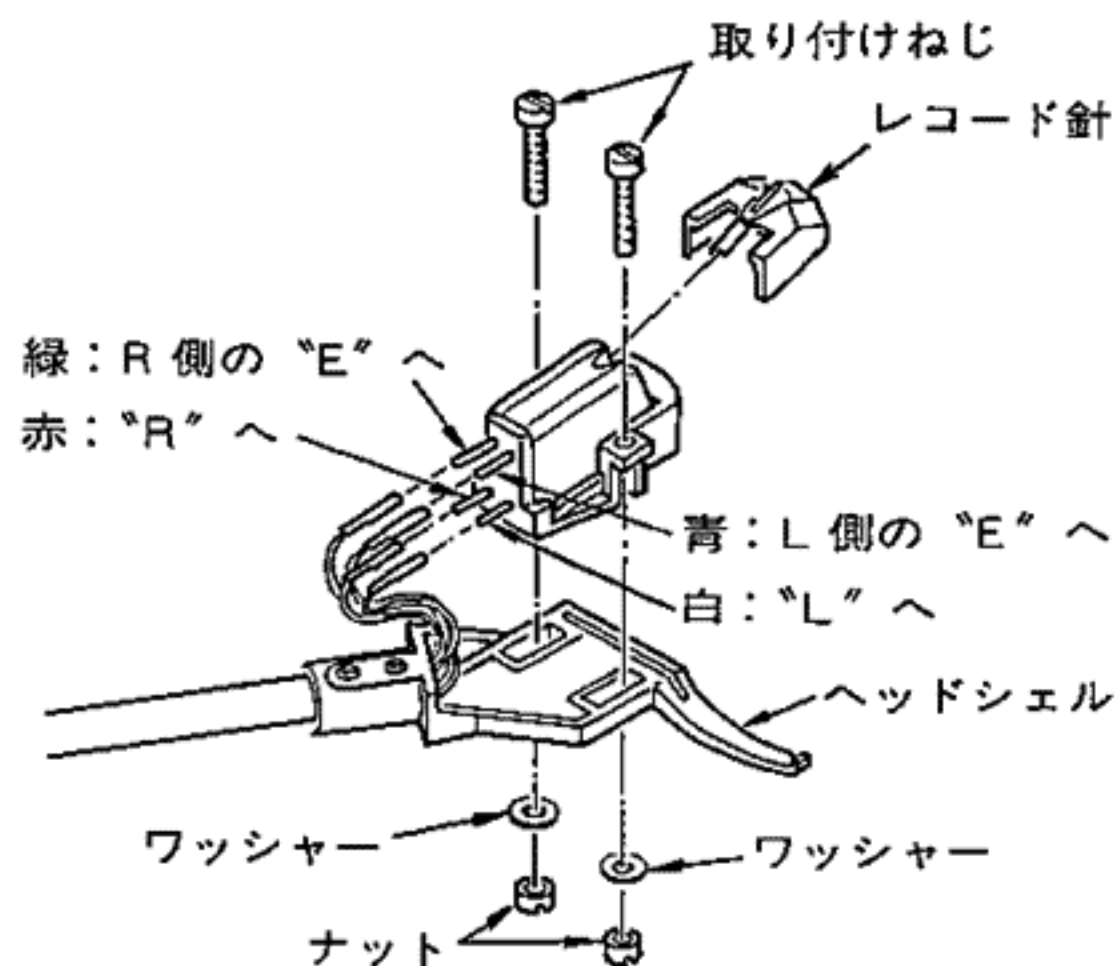
1. 本機のターンテーブルには指かけ用の穴がありませんので、付属のフックを取り付けてから、図のようにモーター軸の孔がターンテーブルの十文字溝へくるように取り付けます。モーター軸の孔がふさがれてしまいますと、スタビライザー ユニットをご使用になっても空気が吸込まれなくなります。
2. ターンテーブルを取り付けたあとは、フックを取りはずし、ゴム シートをのせてください。



準備

■ カートリッジの取り付け

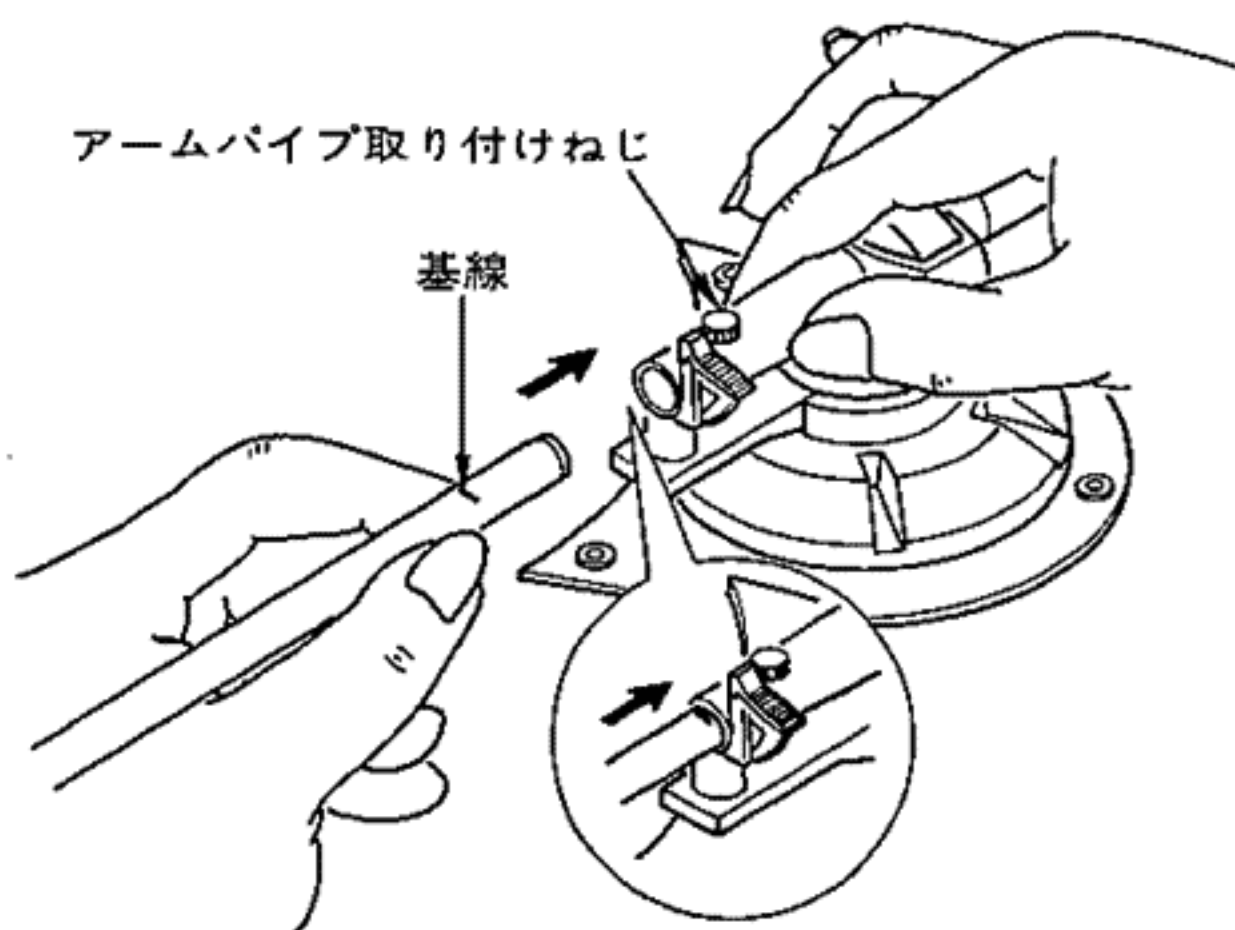
1. 本機にはカートリッジが付いておりませんので、パーツボックスの中のストレート型アームパイプ または S 字型アームパイプに、お手持ちのカートリッジやヘッドシェルを取り付けます。この場合ヘッドシェルのリード線は図のようになっておりますので、極性を間違えないように注意して接続してください。



2. カートリッジをヘッドシェルに対してまっすぐ取り付けて軽くねじ止めしておき、「オーバーハング調整」をおこなってからしっかり固定します。なお、「オーバーハング調整」については 9 ページをご参照ください。

■ アームパイプの取り付け

アームパイプ取り付けねじをゆるめ、カートリッジの付いたストレート型アームパイプ または S 字型アームパイプを図のように基線がわずかに見える所までさしこんでから固定します。

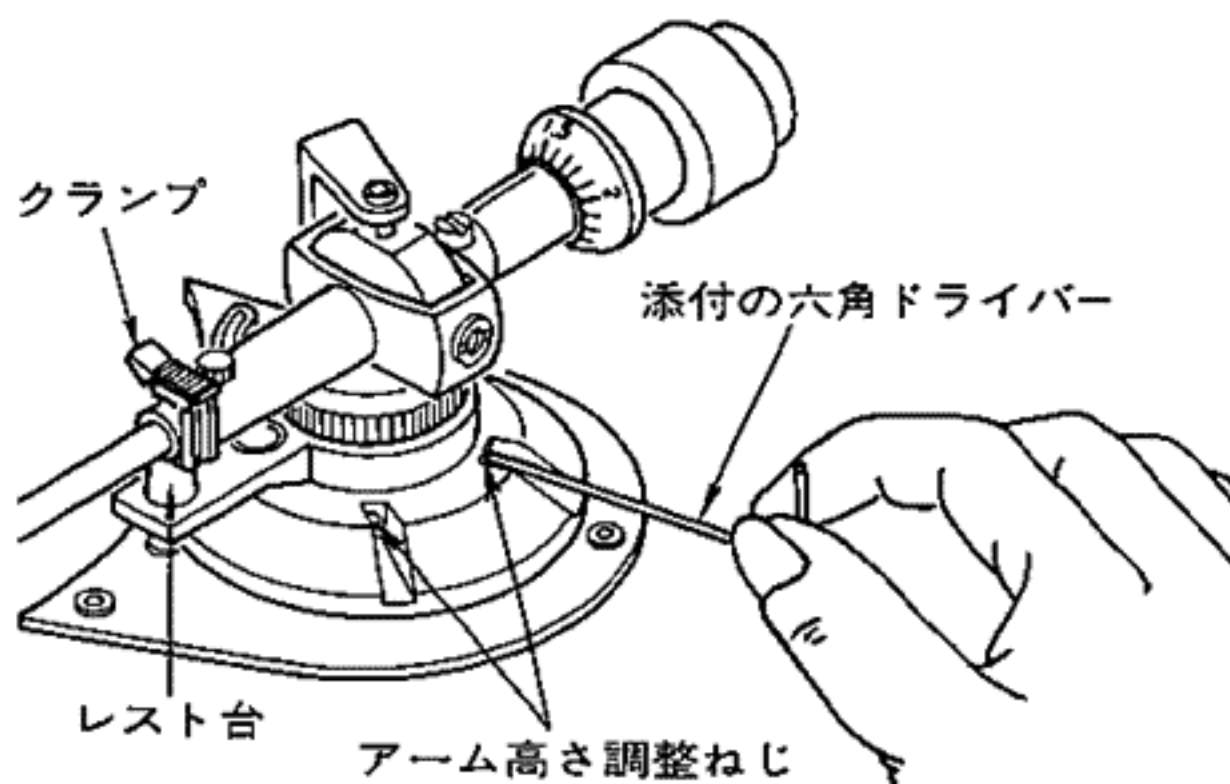


■ トーンアームの高さ調整が終わるまで、電源プ

■ トーンアームの高さ調整

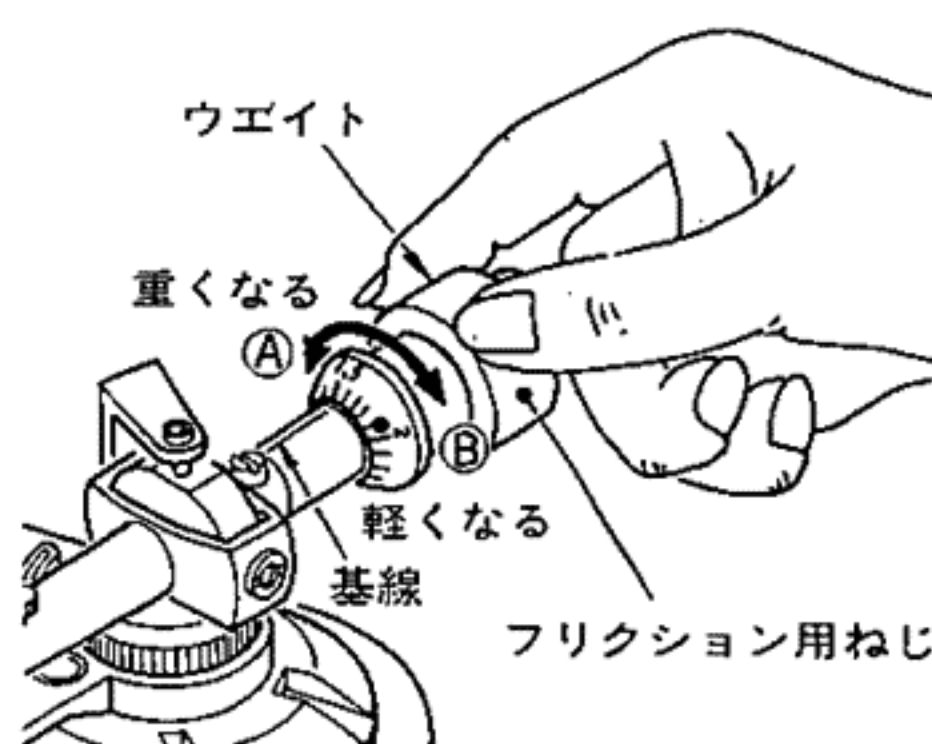
お手持ちのカートリッジに合わせて、トーンアームの高さを調整します。

トーンアームは図で示すように 2 本のねじで固定されておりますので、レスト台にトーンアームを固定したとき、針先とキャビネットの間の間が 38mm となるように添付の六角ドライバーで調整してください。演奏時には、これでトーンアームが水平となります。なお、1 ~ 2 mm 程度の誤差は性能上問題ありません。



■ 針圧調整

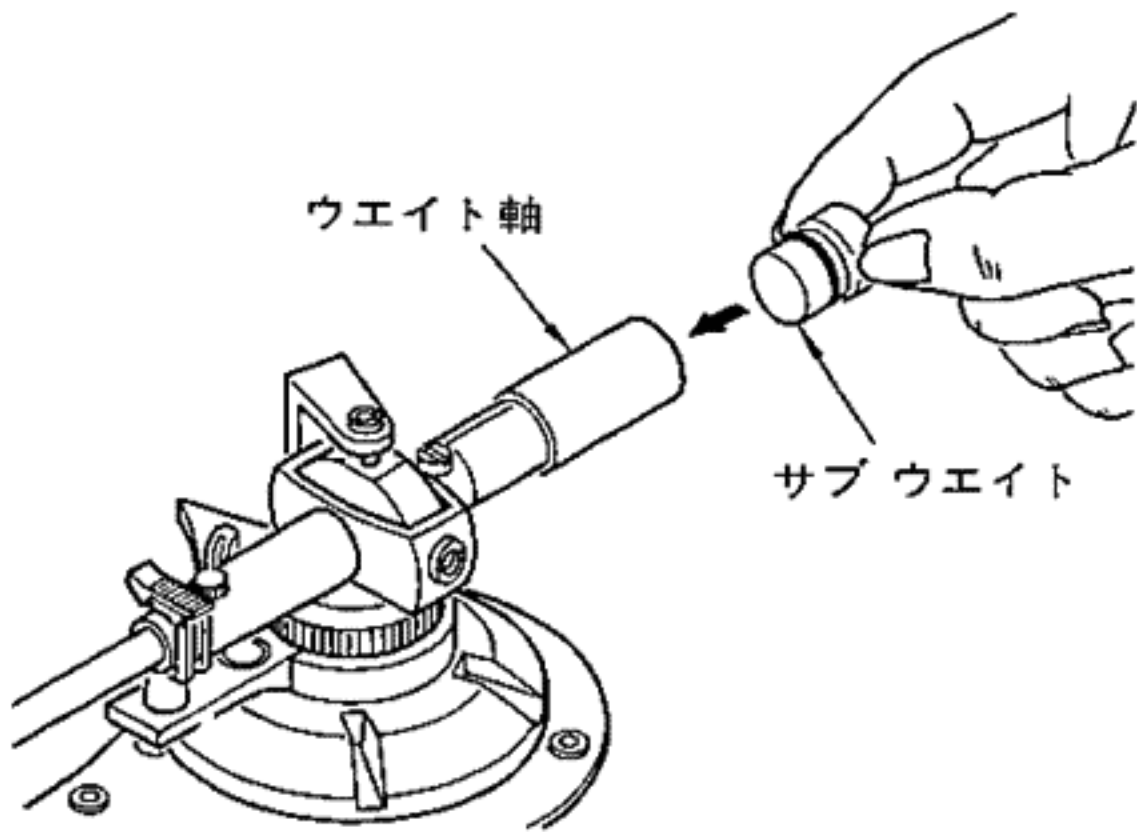
1. 電源プラグをコンセントにさしこみ、POWER のボタンを押して本機に電源をいれます。
2. ANTI-SKATING のつまみを "0" に合わせます。
3. ターンテーブルにレコードをのせ、クランプをはずします。
4. UP/DOWN のボタンを押してトーンアームを降下させます。
5. ウェイトの部分を回して針先がレコード面に触れるか、触れない位置で止めます。(ゼロ バランス調整)



(注)・カートリッジによってゼロ バランスがとれない場合は、下記のようにすれば針圧調整範囲が広がられます。

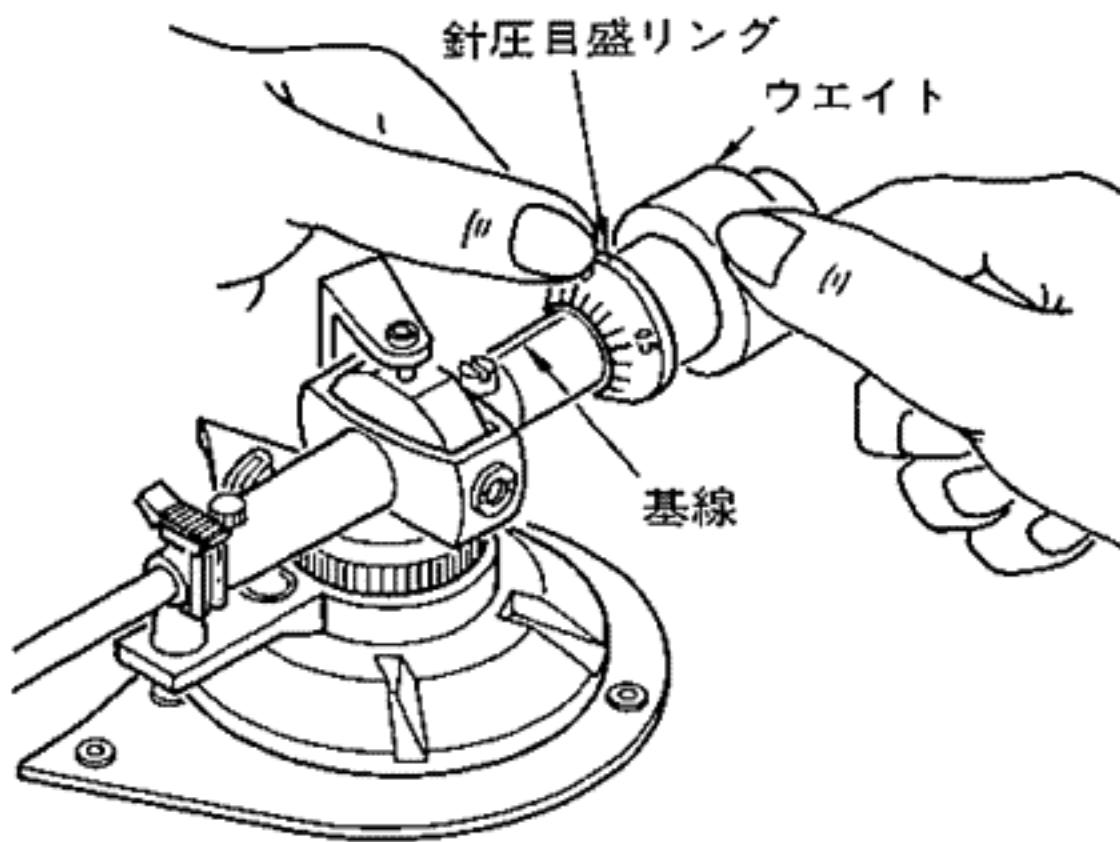
- (1)、フリクション用ねじをゆるめて、ウェイトの部分を前後に移動する。
- (2)、別のカウンター ウェイトに代えてみる。
- (3)、添付のサブ ウェイトを併用する。

ラグはコンセントにさしこまないでくださいー

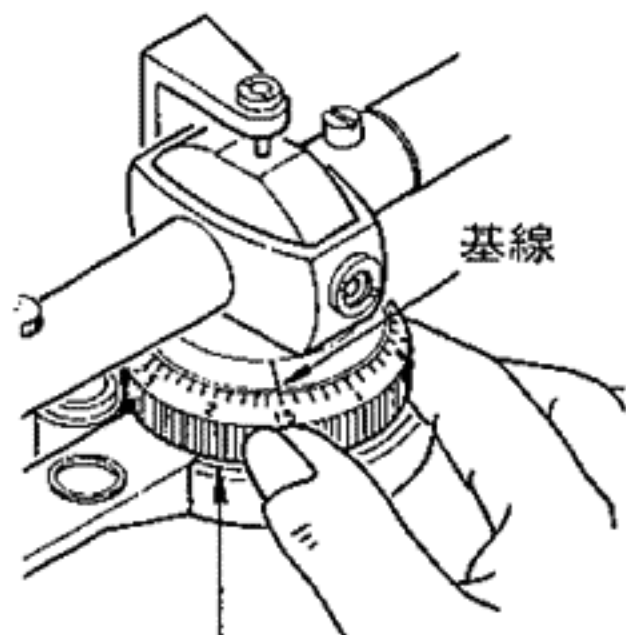


添付のサブ ウェイトを併用するときは、サブ ウェイトをウェイト軸いっぱいにはさしこんでお使いください。

- 6. トーンアームをレスト台にもどし、クランプで固定します。
- 7. ウェイトの部分を押え、針圧目盛リングだけを回して“0”を基線に合わせます。



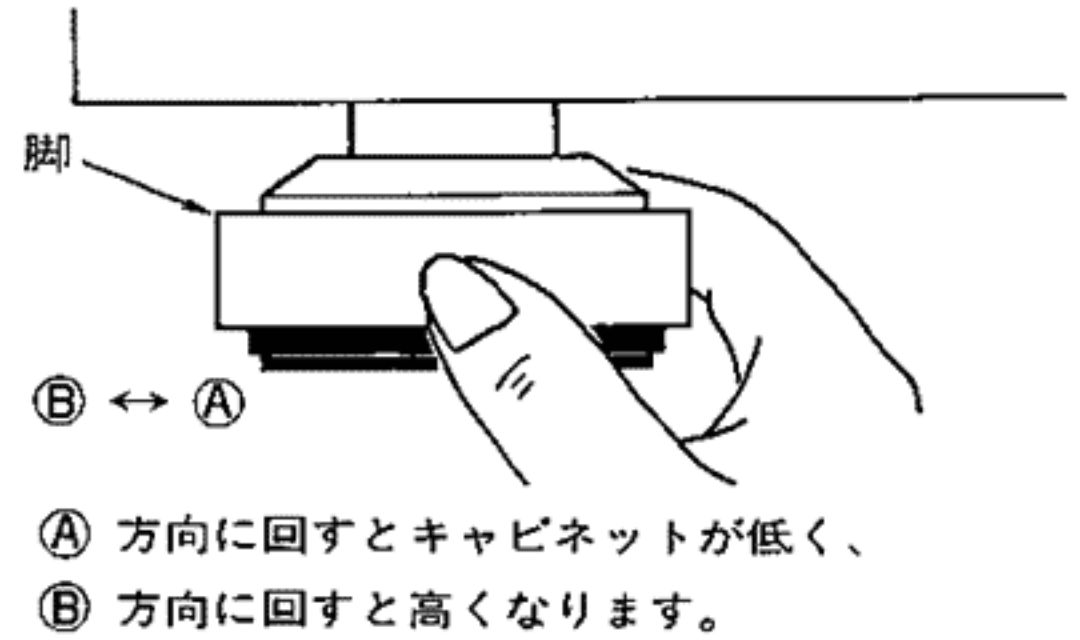
- 8. ウェイトを ① 方向に回し、使用するカートリッジの針圧値のところで止めます。
- (注)・針圧目盛リングだけを動かしても、針圧を調整することはできません。
- 9. ANTI-SKATING のつまみを使用するカートリッジの針圧値に合わせます。



楕円針やシバタ針をご使用になるかたは、6 ページの ANTI-SKATING のグラフをご参照のうえ、このつまみをお回しください。

■ キャビネットの水平調整

キャビネットが水平になるように、脚の部分を回して調整します。

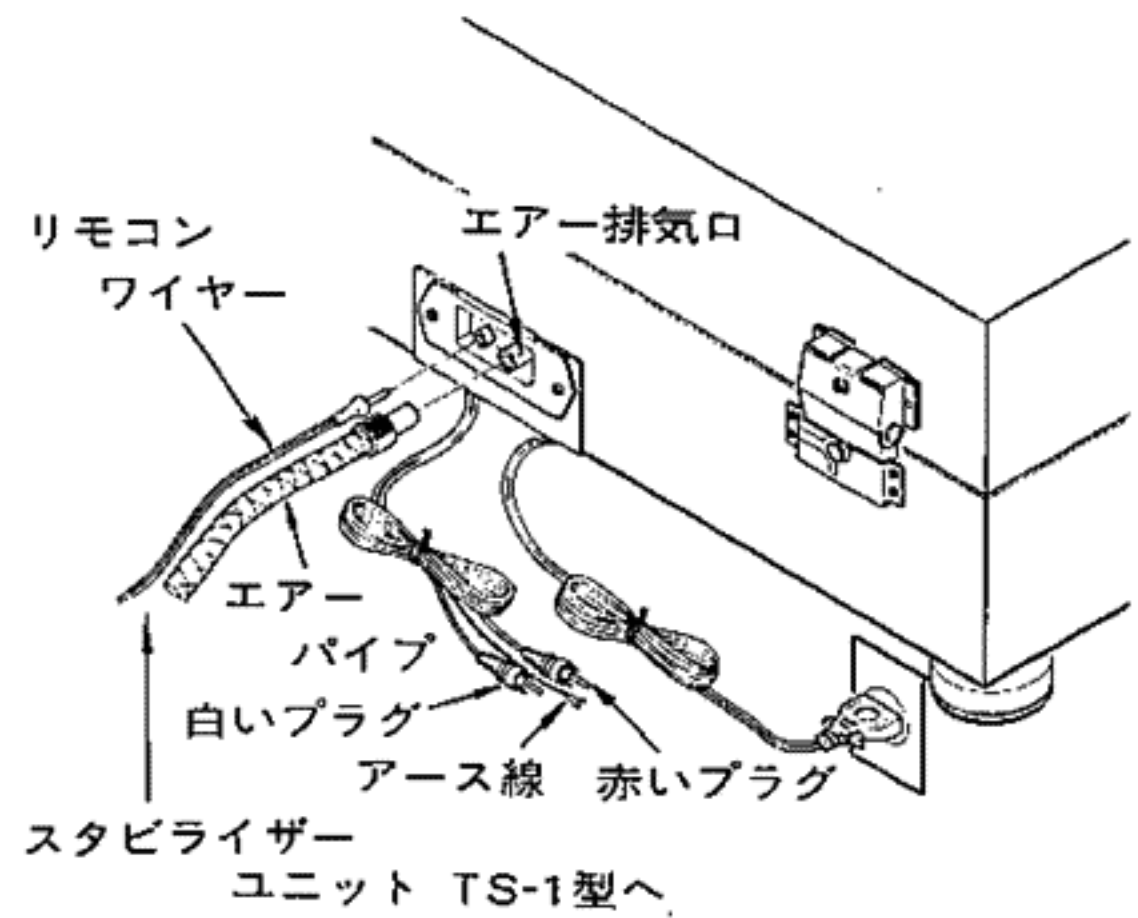


(注)・キャビネットを引きずりますと、脚がねじれることがあります。そのようなときには、もう一度キャビネット全体を持ちあげて脚を水平にしてください。

■ 接続のしかた

アンプの“PHONO”端子へ

- 白いプラグ：左 (L) チャンネル
- 赤いプラグ：右 (R) チャンネル
- アース線：アース端子へ



スタビライザー ユニットをご使用になるかたは、上図をご参照ください。

(注)・スタビライザー ユニット TS-1 型 (別売) を横に置いてご使用いただく場合、スタビライザー ユニットが本機にくっついていたり、または 右側に置いていたりしますと、振動やハム雑音を生じることがあります。スタビライザー ユニットはできるだけプレーヤー システムの左側に置き、少なくとも 1 cm 以上離してお使いください。

主要部分の名称および働き

33/45

レコードに合わせて、ターンテーブルの回転数をこのボタンで切り替えます。

33 $\frac{1}{3}$ 回転 と 45回転 の切り替えは、このボタンを押すたびに交互に切り替わり、スピード インジケーターによって表示されます。

なお、ターンテーブルの回転数を切り替えた直後は、スピード インジケーターの色が赤くなっておりませんが、回転数が安定してクォーツロックの状態になりますと、赤から緑に変わります。

POWER

本機に電源をいれる場合、このボタンを押してください。スピード インジケーターの“33”が点灯して、本機に電源がはいったことを表示します。

なお、電源を切る場合には、このボタンをもう一度押してください。ボタンを押すたびに電源の“ON”、“OFF”が交互にくり返されます。

(注)・本機では ^{パワー}POWER スイッチを切っても 2W の電力が消費されております。
ご旅行などで長期にわたって使用しないときには、電源プラグをコンセントから抜いて節電（または 安全）に心がけてください。

ターンテーブルの略 スタート ストップ TT-START/STOP

ターンテーブルを回転させる場合 または 止める場合、このボタンを押します。

ターンテーブルが止まっているときにこのボタンを押すと、ターンテーブルの回転が“START”を始め、正規の回転数に達すると、スピード インジケーターの色が赤から緑に変わります。また、ターンテーブルが回転しているときにこのボタンを押すと、今度は“STOP”としての機能が働き、スピード インジケーターの色が緑から赤に変わり、ブレーキがかかってターンテーブルが停止いたします。

アップ ダウン UP/DOWN

トーンアームが持ちあがっている状態でこのボタンを押すとアームが降下し、降下した状態でもう一度押すと今度は反対に持ちあげられますので、レコード演奏を開始するとき、またはレコード演奏を途中で一時中断するときにご使用ください。

スピード インジケーター

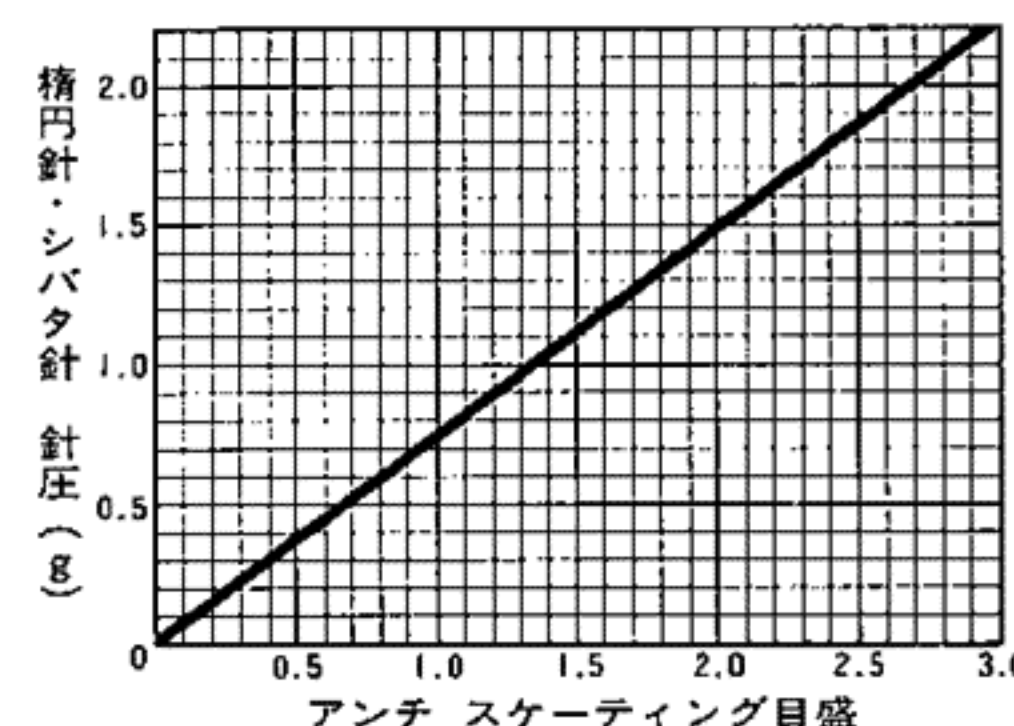
ターンテーブルの回転数が 33 $\frac{1}{3}$ 回転 ではこのインジケーターの“33”が、また 45回転では“45”が赤く点灯し、回転数が安定してクォーツロックの状態になりますと、赤から緑に変わります。

アンチ スケーティング ANTI-SKATING

このつまみをカートリッジで指定された針圧値に合わせますと、針先のすべりや内周溝に加わる力を防止することができます。

なお、本機の ANTI-SKATING の目盛りは丸針用に表示しておりますので、楕円針やシバタ針の場合には、次のグラフをご参照のうえ換算し直してください。

(注)・ANTI-SKATING の目盛を合わせるとき、トーンアームがレスト台にもどされていないと基線の位置がずれてしまいますので、かならずトーンアームはレスト台にもどしておいてください。



スタビライザー STABILIZER

スタビライザー ユニット TS-1 型（価格 50,000 円）を併用し、レコードとゴム シートの間の空気を抜いてレコードを密着させる場合には、このボタンを押してください。インジケーター“TS”が点灯し、ターボ ディスク スタビライザーが働いていることを表示します。

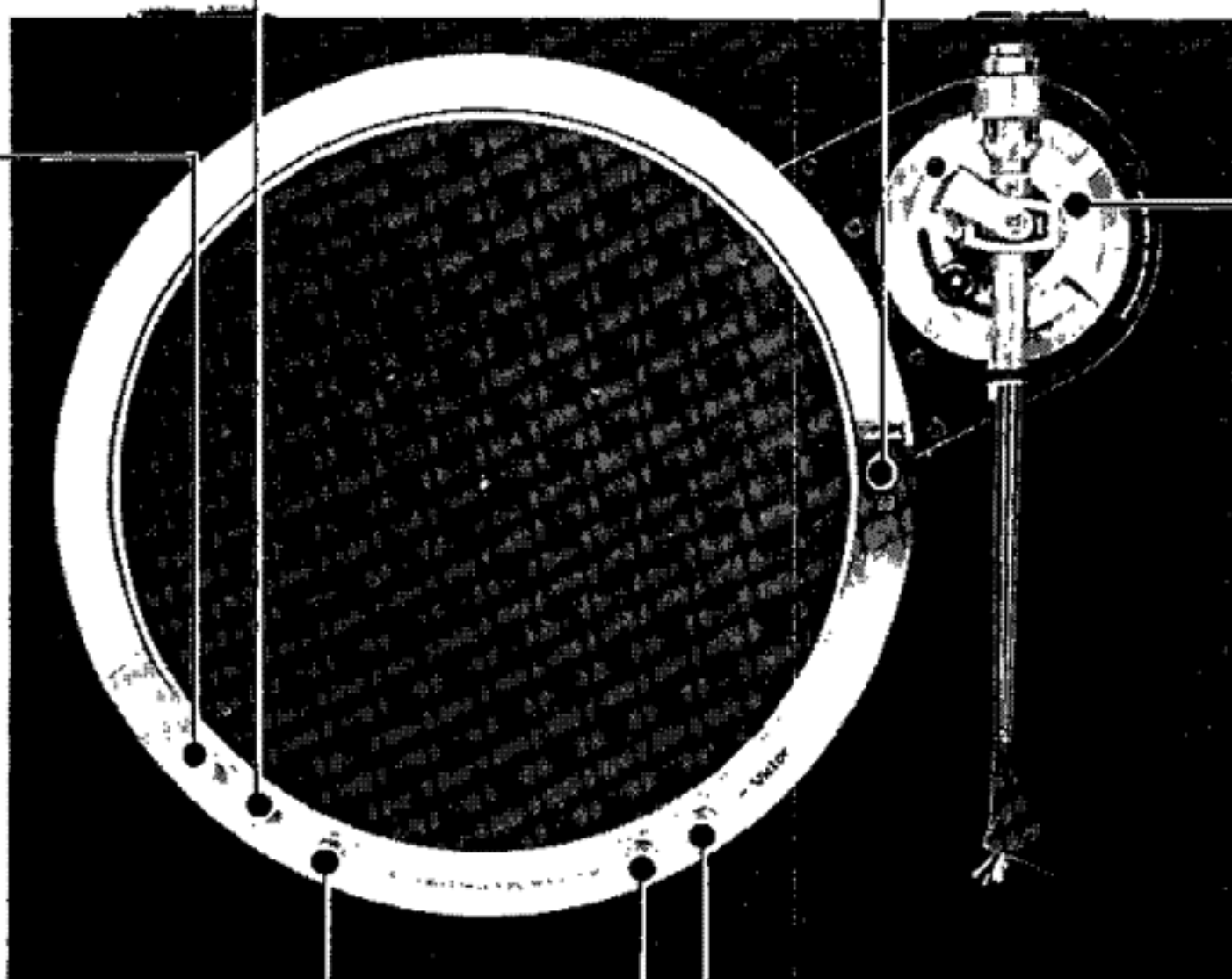
スタビライザー ユニットを用いると、

1. レコードのそりが非常に少なくなる。
2. レコードの質量が見かけ上増し、レコードとゴム シートが密着することによってレコードの振動が少なくなる。

などの特長が生かされ、音楽をより正確に、より忠実に再生することができます。なお、スタビライザー効果が得られない EP レコードでは、再度このボタンを押してインジケーター“TS”を消してください。

(注)・スタビライザー ユニットが接続されてい 않으면、このボタンをいくら押しても“STABILIZER”の機能は働きませんし、インジケーター“TS”も点灯しません。

・レコード演奏が終了しますとトーンアームが自動的に持ちあげられ、インジケーター“TS”が消えて“STABILIZER”機能が解除されます。

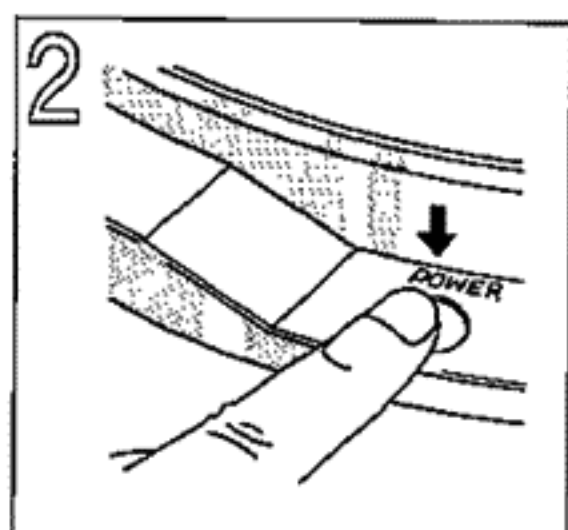
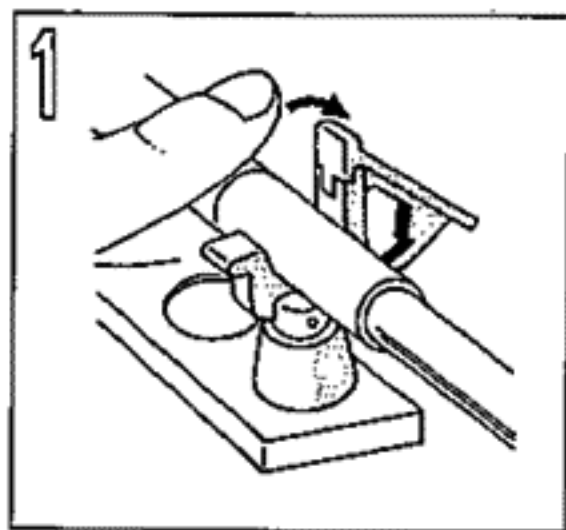


使いかた

■ プレーヤー部の操作

1. レコードをターンテーブルにのせ、レスト台のクランプをはずします。

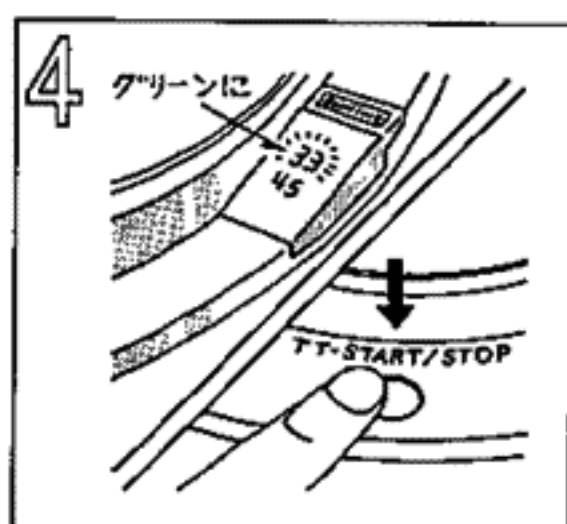
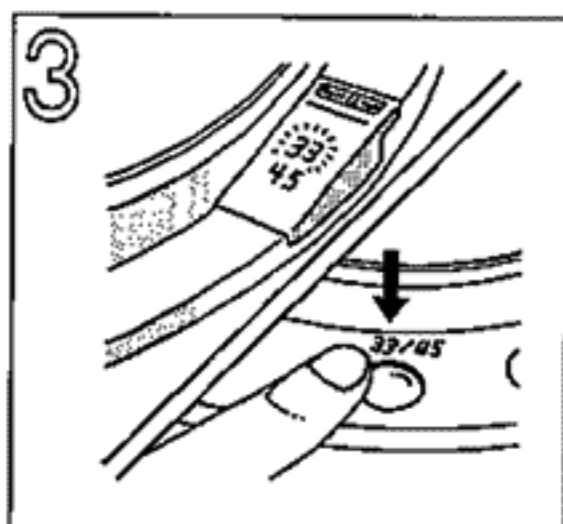
なお、ドーナツ盤のように中心穴の大きいレコードの場合には、添付の EP アダプターをご使用ください。



2. ^{パワー}POWER のボタンを押します。

3. レコードに合わせて、ターンテーブルの回転数をこのボタンで切り替えてください。

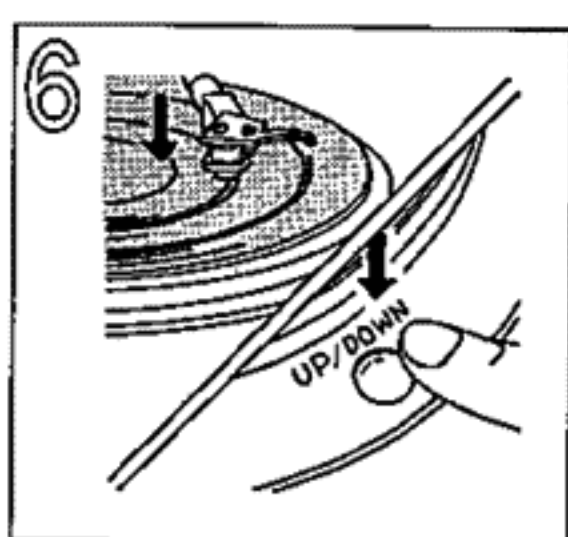
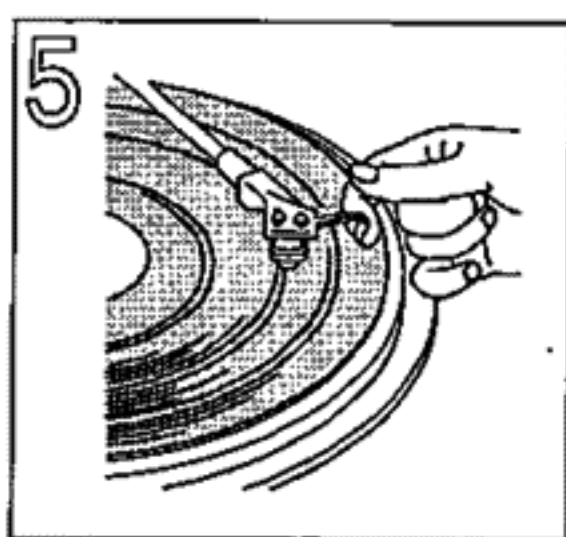
33 $\frac{1}{3}$ 回転 と 45回転 の切り替えは、このボタンを押すたびに交互に切り替わり、スピード インジケーターによって表示されます。



4. TT-^{スタート}START/^{ストップ}STOP のボタンを押します。

このボタンを押すとターンテーブルが回転をはじめ、正規の回転数に達するとスピード インジケーターの色が赤から緑に変わります。

5. 希望するレコード溝の上までトーンアームを手で持ってゆきます。



6. ^{アップ}UP/^{ダウン}DOWN のボタンを押すと、トーンアームが静かにレコード面に降下します。

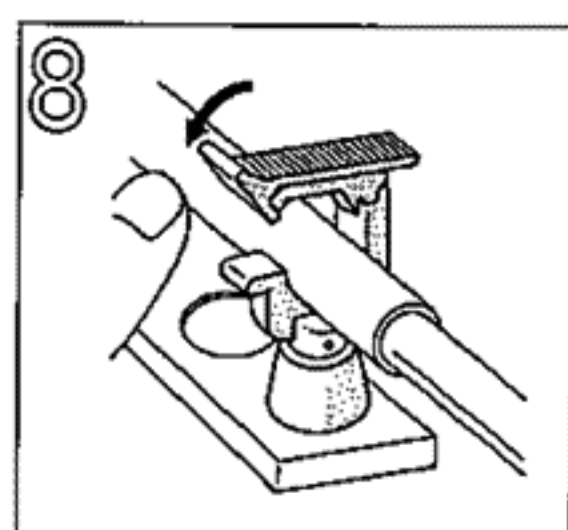
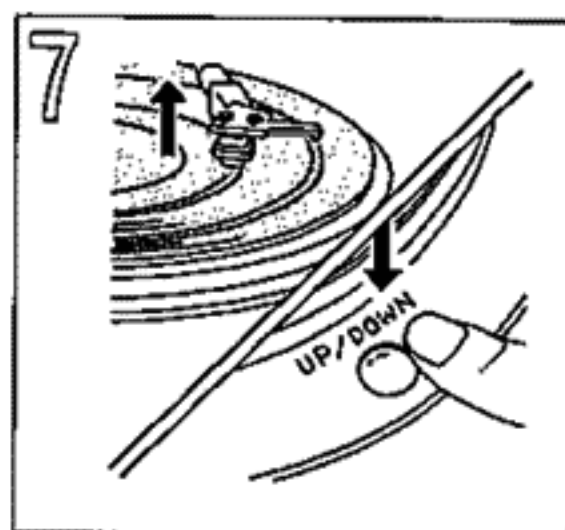
なお、レコード演奏が終了して針先が最終溝に達すると、ターンテーブルが止まると同時にトーンアームが自動的に上昇します。

演奏終了後は、トーンアームをレスト台までもどしてください。

7. レコード演奏を途中で中止 または 中断する場合

UP/DOWN のボタンを押してください。

トーンアームが静かに上昇します。



8. 演奏終了後は、トーンアームをレスト台にクランプします。

そのあと POWER のボタンを押して、電源を切ってください。

電源を切るとトーンアームが "DOWN" の状態になっても自動的に "UP" の状態となります。

説明のないつまみに関しては、「主要部分の名称および働き」の項・5～6 ページをご参照ください。

■ アンプ部の操作

1. POWER スイッチを "ON" にします。
2. ^{ソース}SOURCE スイッチを "^{フォノ}PHONO" にします。
(アンプによっては ^{セレクト}SELECTOR となっているものもあります)
3. アンプ側に ^{スピーカース}SPEAKERS スイッチがあれば、スピーカーのつながる位置に切り替えます。
4. ^{テープ}TAPE ^{モニター}MONITOR スイッチを "OFF" にします。
5. レコード演奏を始めます。
レコード演奏のしかたについては、「■ プレーヤー部の操作」の項をご参照ください。
6. ^{ボリューム}VOLUME のつまみで適当な音量に調整します。

調整

■ レコードを上手に聞くコツ

- レコードにとって一番の大敵は、ホコリです。
針先のホコリはブラシで、また レコードはレコード クリーナーで溝のホコリをきれいにふきとってください。



ホコリは大敵



レコード クリーナーで溝のホコリを

- 針圧が軽すぎると“音とび”を起こしたり、音が歪んだりします。レコードは常に適正針圧でお聞きください。



針先調整不良

- プレーヤーがスピーカーとくっつきあっていたり、振動の伝わりやすい所に置いていますと、ハウリング（一種の発振現象で「ワーン」という大きな音）を起こす恐れがあります。
そのような場合には、スピーカーとプレーヤーを離してご使用ください。



くっつけない

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシェルを取り付けたり、交換したときにのみおこなうようにして、普段はいじらないでください。

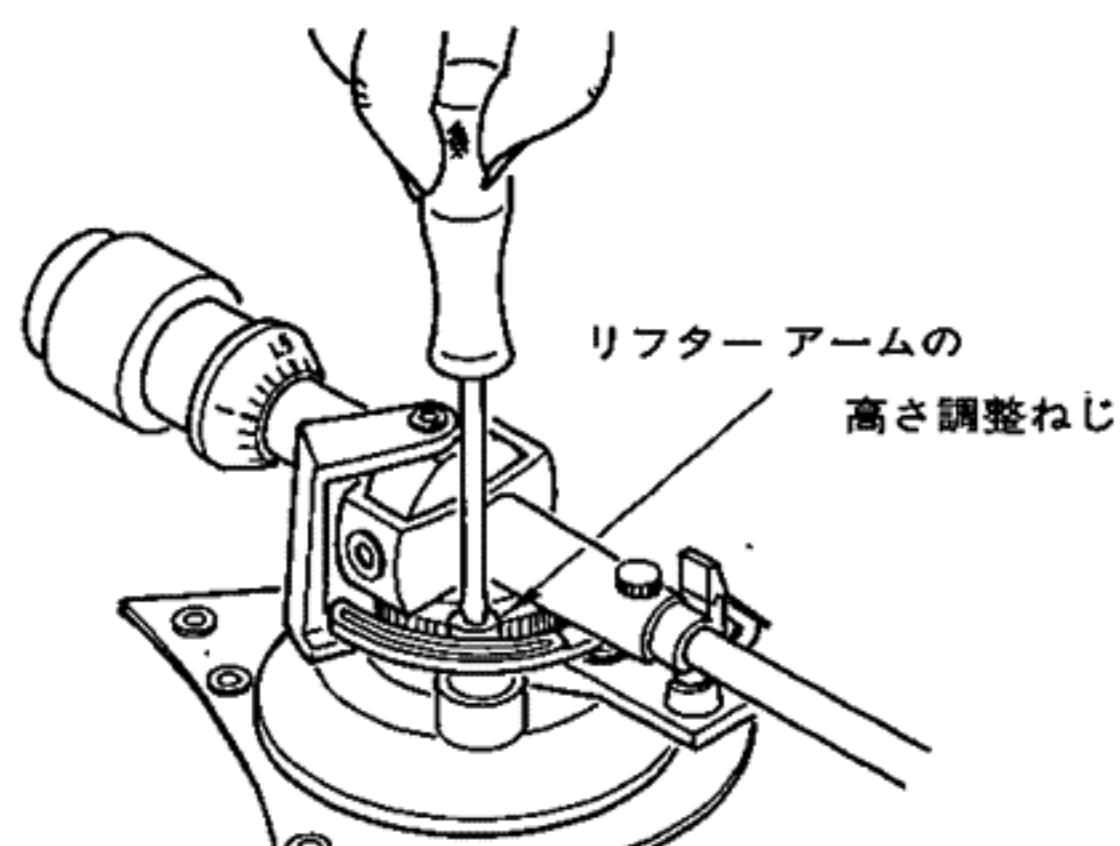
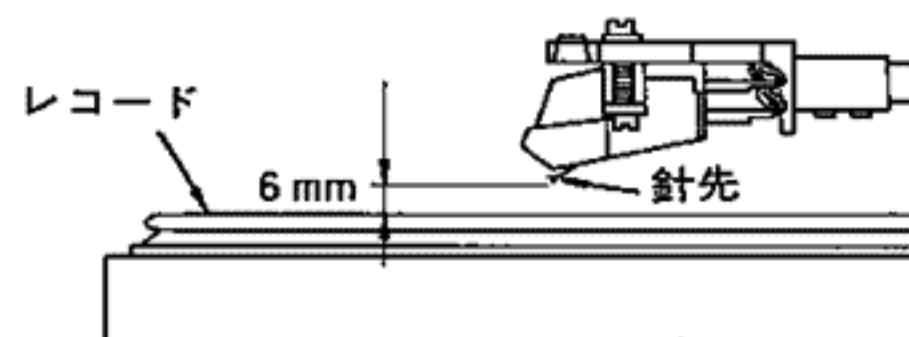
■ リフター アームの高さ調整

リフター アームを上昇させたとき、針先とレコードとのすき間は 6 mm 前後が適当です。

すき間がこれ以上になりますと、トーンアームとリフター アームとのすき間も場合によってはなくなり、レコード演奏ができなくなります。

リフター アームの高さ調整ねじで、針先とレコードとのすき間を 6 mm 前後に調整してください。

なお、この調整ねじは右(↷)に回すとリフター アームが低くなり、左(↶)に回すと高くなります。



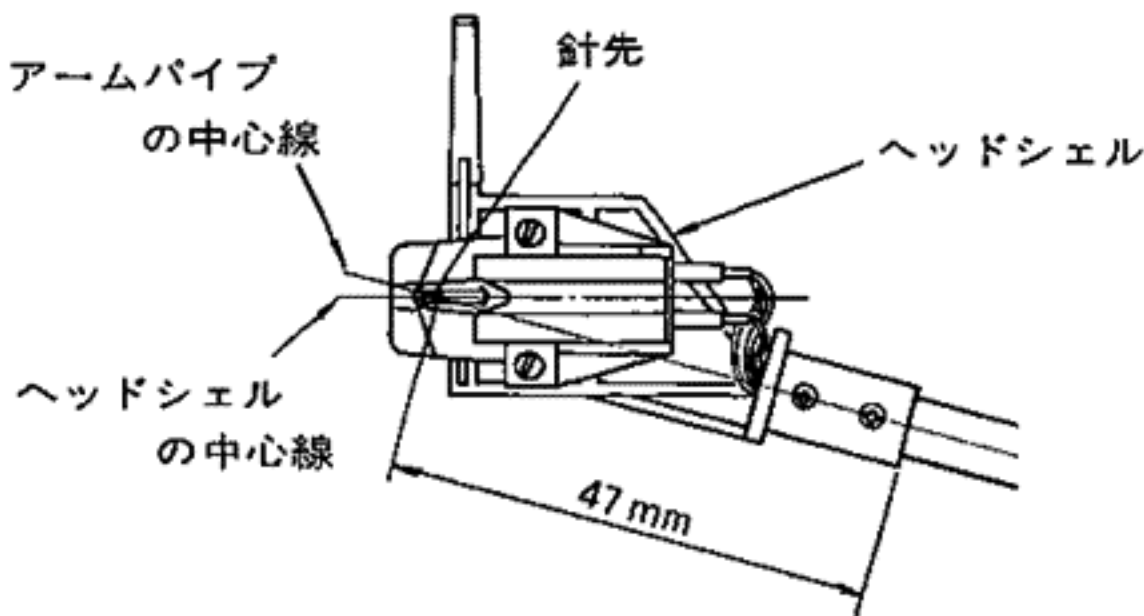
調整

次に示す調整は、カートリッジやヘッドシェルを取り付けたり、交換したときにのみおこなうようにして、普段はいじらないでください。

■ オーバーハング調整

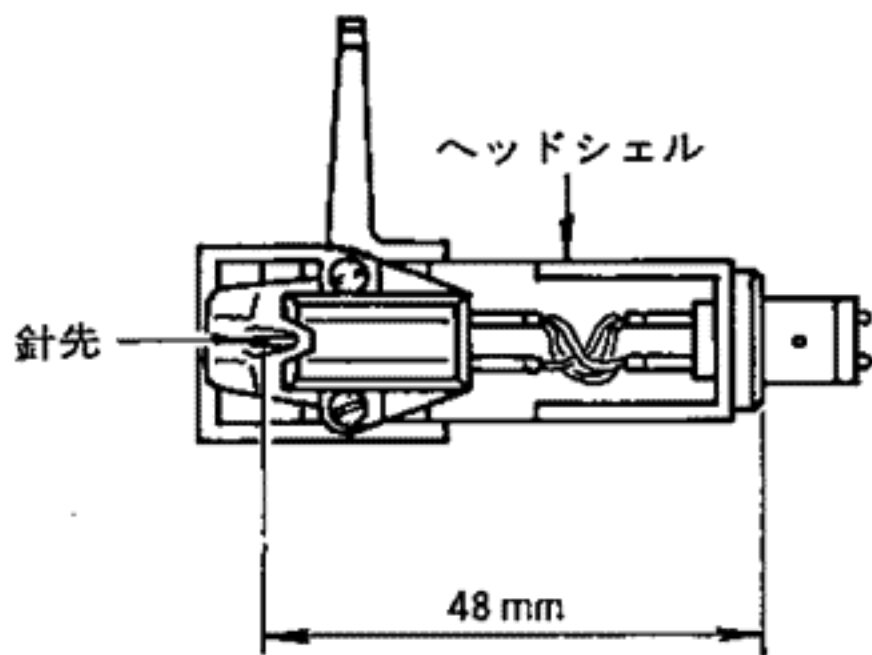
・ストレート型アームの場合

図のようにヘッドシェルに対して平行で、かつ端から針先までの寸法が 47mm になるように、しかもアームパイプの中心線とヘッドシェルの中心線が交わる所に針先がくるようにしてください。



・S字型アームの場合

図のようにヘッドシェルの端から針先までの寸法が 48mm になるようにカートリッジを取り付けてください。



なお、±1mm 程度の寸法誤差は、性能上問題ありませんので、安心してお使いください。

保証とアフターサービス

■ 保証書には、購入年月日などが必要

この商品には、保証書を別途添付しております。保証書はお買いあげ販売店でお渡ししますので、所定事項の記入 および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。



■ 保証期間

保証期間は、お買いあげ日より1年間です。保証書の記載内容により、お買いあげ販売店が修理いたします。そのほか詳細は、保証書をご覧ください。



■ アフターサービスのお問い合わせは

ご転居・ご贈答・その他アフターサービスについてご不明の点は、お買いあげ販売店 または 別紙「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。また、ビクターサービス窓口にお申し出、ご相談ください。



■ 保証期間経過後の修理

保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。



■ 補修用性能部品の保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。なお、補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。



■ 修理依頼

修理を依頼されるときは、お手数でももう一度「故障? と思う前に」の項(10ページ参照)をよくご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときには、電源プラグをコンセントから抜いて、次のことをお知らせください。

- ・ 型名: QL-A95
- ・ 住所、氏名、電話番号、道順
- ・ 訪問希望日
- ・ 故障状態をできるだけ詳しく



故障？ と思う前に

— おや？ 故障かな？ と思ったら ……………
修理を依頼する前にちょっとお確かめください —



音がでない。

コードがはずれていませんか。



コードは忘れず、確実に。

^{ソース}
SOURCE ^{セレクター}
SELECTOR の操
作を誤っていませんか。



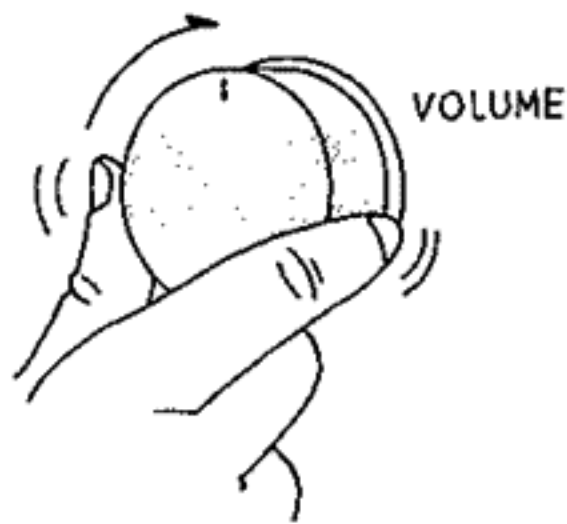
SOURCE SELECTOR の操
作は正しく。

^{テープ}
TAPE スイッチが
^{モニター}
MONITOR になっていま
せんか。



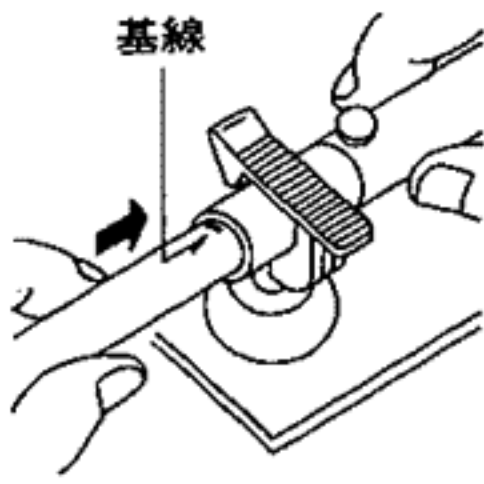
TAPE スイッチを
"SOURCE" または
"OFF" にしてください。

音量を絞っていませんか。



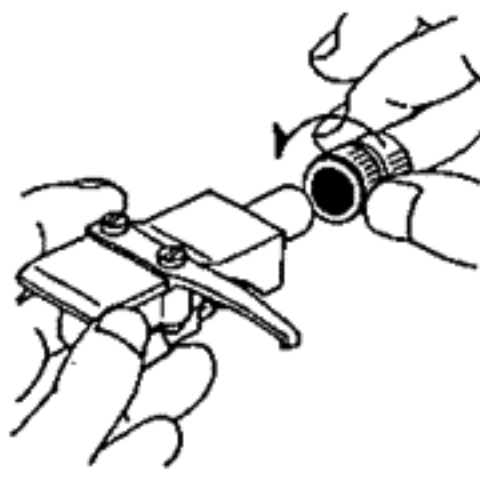
適当な音量に調整してく
ださい。

アームパイプのさしこみは十
分ですか。



基線がわずかに見える所ま
でアームパイプをさしこん
でください。

S 字型のアームパイプの場合、
プラグイン ナットがゆるんで
いませんか。

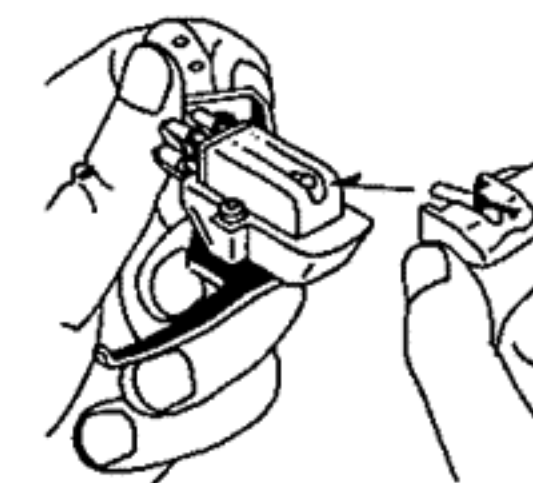


ヘッドシェルをプラグイン
ナットでしっかりアームパ
イプに固定してください。



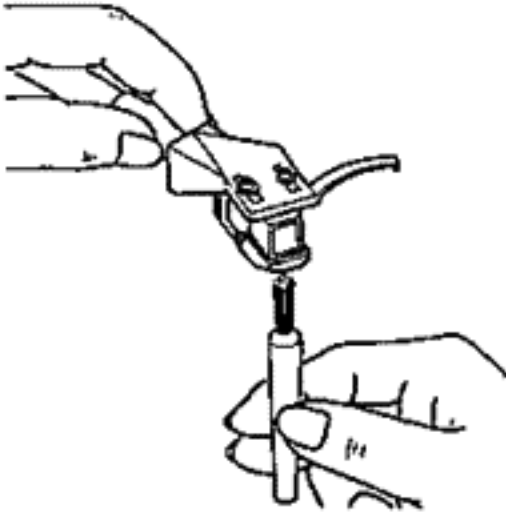
雑音で聞き苦しい。

レコード針が摩耗していませ
んか。



新しいレコード針に交換し
てください。

針先にホコリが付いていま
せんか。



針先のホコリは、ブラシで
きれいにふきとってください。
い。

レコードが古かったり、ホコ
リが付いていたりしませんか。



レコード クリーナーでホコ
リをふきとってください。

仕様

寸法図

- | | | |
|---------|-------------|--|
| ● モーター部 | 型式 | クォーツロック コアレス DC型 FGサーボ方式 |
| | 駆動方式 | ダイレクト ドライブ |
| | 回転数 | 33 $\frac{1}{3}$ 、45 回転 |
| | 速度検出方式 | 周波数検出方式 (FG 方式) |
| | サーボ型式 | 両方向 サーボ クォーツロック |
| | 起動特性 | $\frac{1}{4}$ 回転以内 (33 $\frac{1}{3}$ 回転時) |
| | 回転ムラ | 0.008 % (RMS 回転部 FG 法)
0.018 % (WRMS JIS 法) |
| | S/N | 85dB 以上 (DIN-B) |
| | 起動トルク | 3 kg・cm |
| | 回転数偏差 | 0.001 %以内 |
| | 負荷特性 | 0 % (針圧の合計が 250g までは回転数の変化がありません) |
| | ドリフト | 0.0001 %/H |
| | 電圧特性 | 0 % (± 10 V) |
| | 温度特性 | 0.00003 %/°C |
| | ターンテーブル | 30.8 cm |
| | クイック ストップ特性 | $\frac{1}{4}$ 回転以内 |

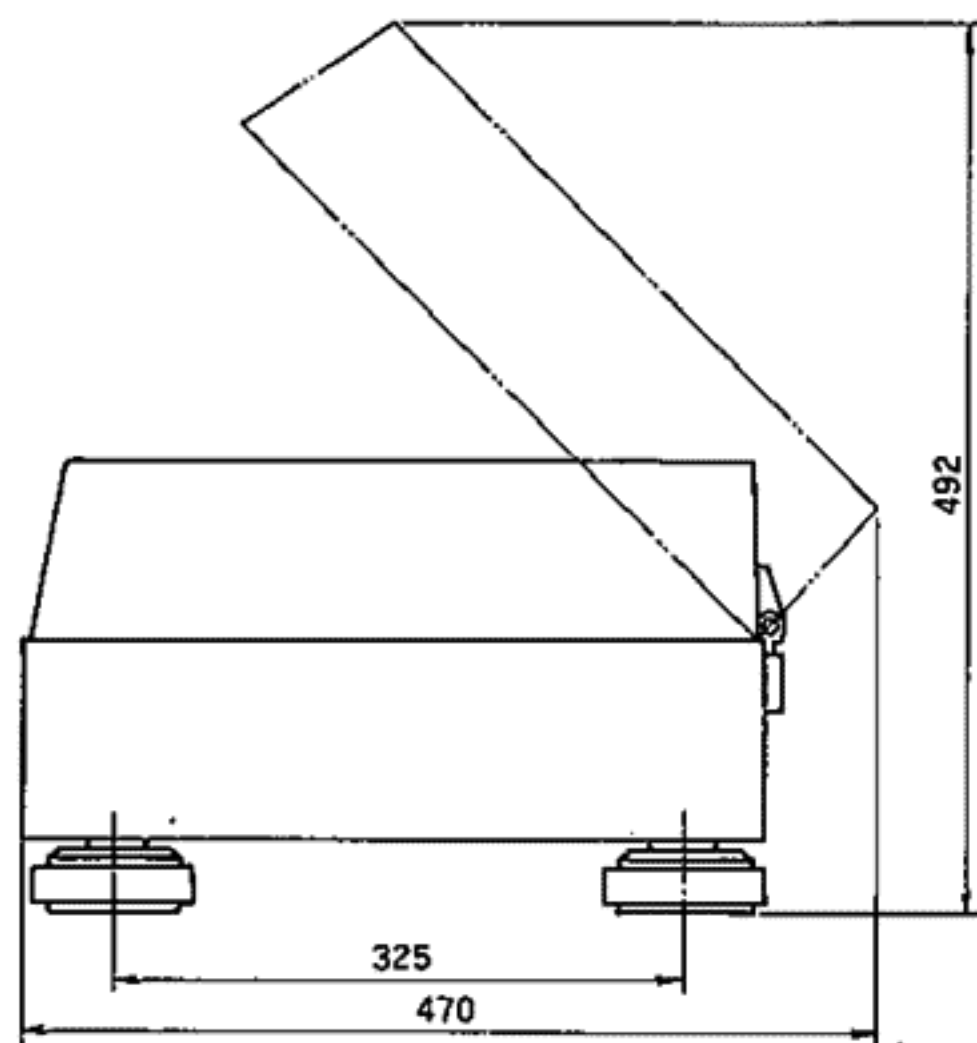
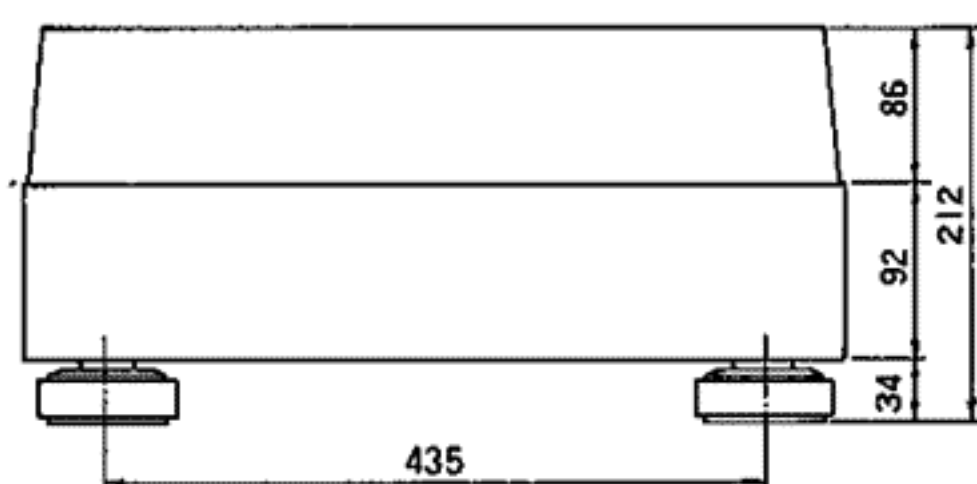
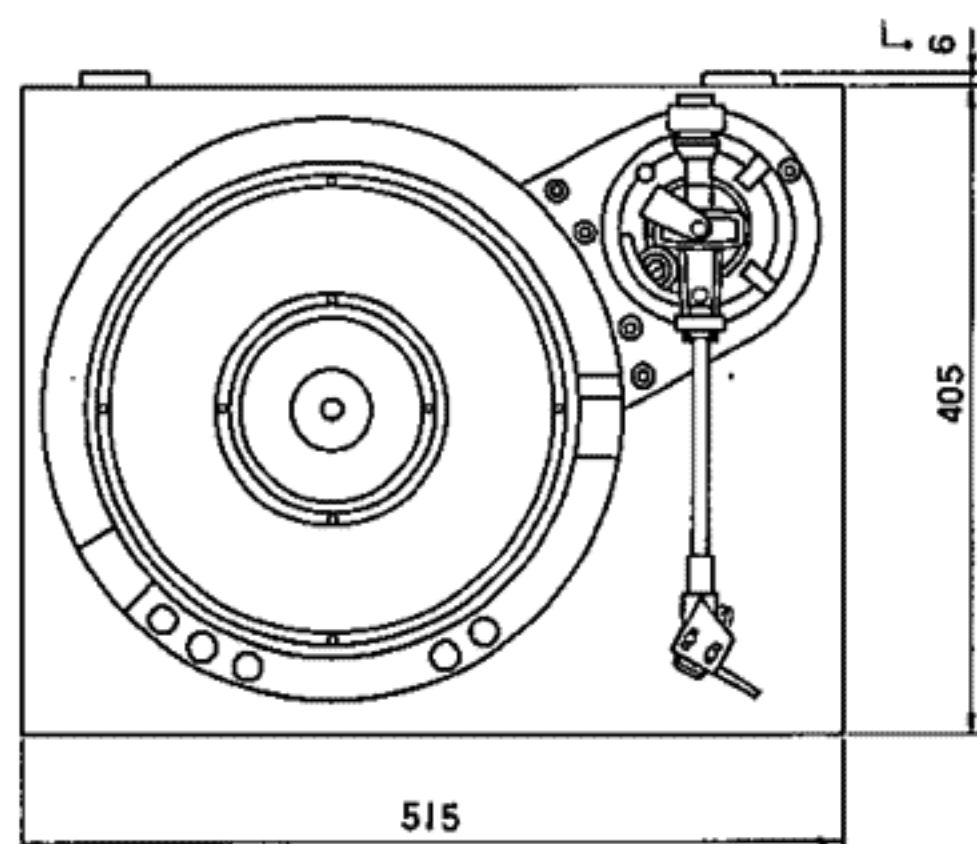
- トーンアーム部 型式 ダイナミック ダンピング ニュージナル サポート トーンアーム
 - 有効長 254 mm
 - トラッキング エラー + 1°48' - 1°12'
 - オーバーハング 15 mm
 - 針圧可変範囲 0 ~ 3 g (0.1g ステップ直読式)
 - 適合カートリッジ重量範囲 4 ~ 10g (ストレート型・サブ ウェイト無し)
11 ~ 17g (ストレート型・サブ ウェイト有り)
8 ~ 14g (S 字型・サブ ウェイト無し)
15 ~ 34.5g (S 字型・サブ ウェイト、
カウンター ウェイト 大・使用時)
 - アーム高さ可変範囲 51 mm ± 3 mm

- その他
- | | |
|------|--|
| 電源電圧 | AC 100 V (50 Hz、60 Hz 両用) |
| 消費電力 | 演奏時：50 Hz：12 W、60 Hz：13 W
POWER OFF 時：2 W (50 Hz、60 Hz) |
| 重量 | 20.5 kg (本体) |

付属品	
EP アダプター	1
フック	2
六角ドライバー	1
ストレート型アームパイプ.....	1
S 字型アームパイプ.....	1
カウンター ウェイト	2
サブ ウェイト	1
スクリー Ass'y	1 セット

(注)・本機の仕様 および 外観は、改善のために予告なく変更することがあります。

(ダスト カバーなしの状態)



(注)・寸法の単位は mm です。

・上記の寸法は設計寸法ですので、ラック（棚）などに設置する場合は、若干の余裕を考慮してください。

日本ビクター株式会社 ステレオ事業部

所在地 〒242 神奈川県大和市下鶴間甲10号1644番地 電話 (0462) 74-2121(代表)

お問合せ先 ビクターインフォメーションセンター 電話 (03) 580-2861
〒100 東京都千代田区霞が関3丁目2番4号